

# 稲富紀美江様を偲んで



職場や旅、その他の場で ご一緒したメンバー一同からの

## メッセージ集

写真はベトナムの旅でご一緒したときの写真です。娘さんがサポート役で一緒に参加されました。(ハロン湾の船の中)  
韓国、台湾、ベトナム、中国、そしてカンボジアなどアジアを一緒にまわりました。もっとご一緒したかったです。(旅仲間)

## 意志を貫き通す逞しさと優しさの方

山本隆憲

芳和会本部の勤務となったときに、本部で看護部長をされていました。稲富さんは、いつも私より遅く帰っていました。翌日は朝早くから本部に出勤していました。自宅での睡眠時間は3時間程度で、朝の食事は車中食だと言っておられました。

どんな困難にも屈せず、自分の意志を貫き通す逞しさと優しさを教えていただきありがとうございました。安らかに眠りください。

## 素晴らしい先輩

今村 須美子

1985年頃で、希望ヶ丘診療所で初めてお会いしました。

看護協会の総会で、堂々とそして凛として看護を良くする会の代表として意見を述べられていた姿が立派でした。

いつもOB会の会報が届くと、お礼の電話をしてこられてしばらくお話ししていました。ずっとOB会を支えてくださいました。

全てにおいて素晴らしい先輩でした。



カンボジア アンコール空港にて 2017年5月21日

## 優しくて知的で冷静

渡瀬邦子

多分、私が平和診療所に入職した後、希望ヶ丘診療所の師長をされている時だったと思います。美人で優しくて知的な看護師さんでした。

一緒に仕事をしたのはくわみず病院が開院した後の一年間だけでした。その頃稲富さんは総師長をされていて、できたばかりの病院で全てのことに心を砕いて苦勞されていました。会議では若いDr達の遠慮のない批判にも声を荒げることなく冷静に受け止めておられるのが印象的で、稲富さんしかできないことだなと感心していました。看護師業務もトラブル続きで夜勤予定の看護師が来なかったり、患者さんとの問題が発生したりで落ち着く間がなかったと思います。

優しい笑みで天国から世界の平和を見守ってください。

## 職場でも退職後の旅でも一緒に

渡邊 孝宏

稲富さんとの出会いは、希望ヶ丘診療所に入職した時です。その時は事務職で、娘さんをつれてスケートに行った記憶があります。その後、保養院に移り看護職、県連で看対の仕事だった時、看護部長は退職されたように思います。

その後、2012年中国旅行・2014年6/23～27台湾旅行・2015年5/5～5/8ベトナム旅行・2017年5/21～25カンボジア旅行・2018年6/2～6/4台湾旅行と一緒に参加させて頂きました。

何事にも積極的に興味を示され、カンボシアでは蟻を稲富さんが食べるのを見て試食した記憶があります。 ご冥福を祈ります。

## 都会的なセンス素敵な方！

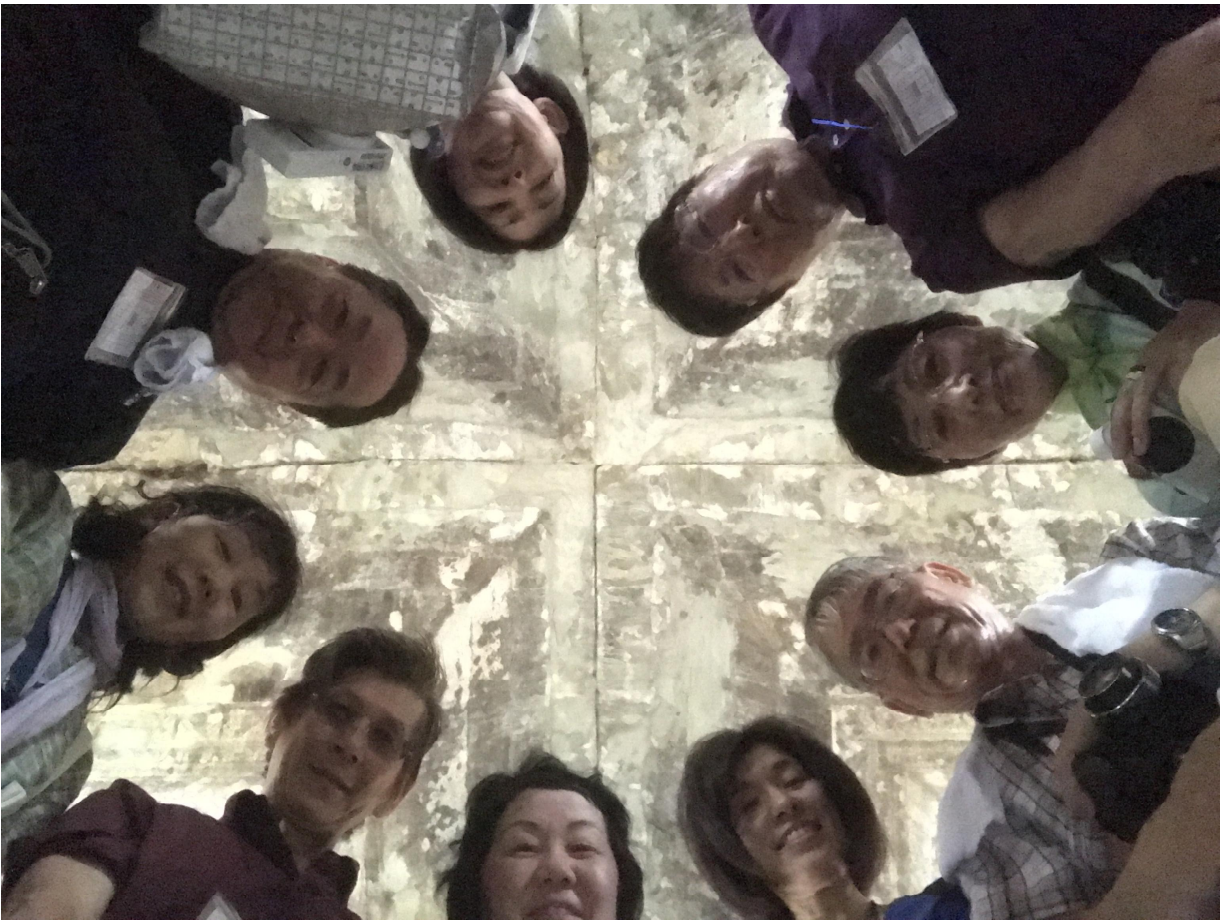
吉尾 邦子

まだ済生会病院に勤めていた24歳の頃、新しい診療所を立ち上げるからと誘いがあり、楠一丁目？の建設準備の事務所でお会いしのが初めてだったと思います。日産の黄色いサニーで自宅まで送って下さいました。今まで出会った婦長さんとは違った都会的なセンス素敵な方！と言うのが最初の印象です。

私にとっての稲富さんは、希望ヶ丘診療所の婦長さんです。開所してまもない頃、仕事終わりに稲富さんについて赤旗新聞拡大の訪問を度々しました。診療圏外を飛び入りでまわったものです。全く増えなかったように記憶していますが、訪問先の方の反応に帰り道二人で大笑いした事は今でも思い出します。

稲富さん、私達の働いた時代は「24時間たたかえますか」という健康ドリンクののCMーシャルが流れた時代でした。在職時は本当に良く働かれましたね、思慮深く何事にもきちんとした対応をされ、仕事は緻密にこなされるその精神力はどこから生まれたのですか？退職されてからは絵画や太極拳と趣味の世界に羽ばたかれ才能を発揮されました。病気とも看護師らしく向き合われ、命つきるまで頑張られたのではないのでしょうか。私達も日々を大事に一つひとつの事に諦める事なく向きあって生きて行きたいと思います。ちゃんとしてるか見守って下さい、これまでそそいで下さった沢山の愛に感謝しつつ。

カンボジア アンコールワットにて 2017年5月22日



### 稲富さんの思い出 田中克己

稲富さんに初めて会ったのは、たしか私が民医連に入職する2年前だったと思います。

私が十二指腸潰瘍で他の病院から希望ヶ丘に転院し薬をいただきに行ったとき、稲富さんから「薬を飲むだけではだめですよ、規則正しい生活をしなければ」と真剣に言われたのを思い出します。その頃の私は、組合活動で食事を取ったり取らなかったりしていたときです。私は、そんな規則正しい生活はとて出来ないと思っていました。その私が2年後希望ヶ丘に入職しました。

稲富さんと私は希望ヶ丘での1年間でした。なぜなら、稲富さんはくわみず病院に行かれました。その1年間で心に残っていることは、稲富さんは夜遅くまで仕事をされていたようでした。思い出は、顔にやわず「ゲテモノ食いだ」と言うことです。あるとき職員で食事に行ったとき、その店が「ゲテモノ料理を出される店だったのです。食事の途中にその「ゲテモノ（バッタ、かえる）料理が出されて、みんなは手をつけずにいると、稲富さんは「ゲテモノ料理が好きだ」と言われ食べておられたのを思い出します。

旅先では、何でも興味を持たれて、突進されていました。宿での交流シーンでは我々庶民の会話にもちゃんと真剣に加わってくださいました。

カンボジア シェリムアップにて 左娘さんと



# 語学も絵画も太極拳に旅も一生懸命

長谷川博

正式な出会いは希望が丘診療所一九七六年年二月だったでしようか。

カンボジア、ベトナム、韓国、台湾を一緒にしました。それぞれの地での思いが多いです。韓国では偽ブランドのバッグをさらに値下げ交渉、大喜びされておられました。そのバッグは一度も使わずに壊れたような・カンボジアでは蟻が調味料になっているという案内人の言葉を信じて、木の葉っぱの上の蟻を捕って食べて感想を「ちよつと酸っぱいかな」とか。

とても真面目な方で3時間ごとに目薬をさしてと医師の指示があったら、旅先でも時計に3時間おきにタイマーを仕掛けて真夜中に目薬をさされていたとか（これは妻の話を聞いて本当か嘘かは確かでないけど）人の話を信じてとても忠実な行動をされていました。

勤務先の駐車場でフランス語の勉強をされていたことも。中国旅行では、現地の方と船上で中国語で意思疎通を試んでおられてことが印象に残っています。太極拳や絵画などいろんな活躍をされていました。厳しい方でしたが優しい方でもありました。

ご冥福をお祈りします。



# 民医連看護を語り皆を引っ張る責任者 吉田京子

稲富さんが亡くなられたことを聞き、友の会事務所でお会いしたのはいつだったかな?と思い返しました。細身のお体を心配に思いましたが、またお会いできるだろうと思っていました。

稲富さんは、私がくわみず病院開設の翌年に面接に伺ったとき、対応していただいたのが初対面でした。その時も、患者さんの横で点滴スタンドを持ち移動されていて、総婦長さんが病棟を手伝っておられる様子にちよつと驚きました。今思うと、まだ看護体制も準備段階だったのでしょう。くわみず病院の立ち上げにたくさん苦労があったと思います。

看護部のいくつかの委員会と一緒にやらせてもらいましたが、看護学生対策委員会では、学生さんに民医連看護を知ってもらうための色々なアイデアや確保に向けた企画を話し合いました。稲富さんはとても粘り強く一つのことにしても納得するまで話し合う方でしたのでいつも会議時間は長くなっていったように覚えています。私に欠けている部分ですが、稲富さんには自分の信念をもって、民医連看護を語り皆を引っ張るという責任者の姿勢を教えていただきました。

看護部長になられ、芳和会でヘルパー養成講座を開くということを決め実行されました。当時まだそういう養成は少なかったと思います。その時、私は稲富さんから講師を依頼され、「私にできるかな」と戸惑いしましたが、挑戦と思い引き受けて食事介助やシーツ交換、清拭など受講生の方と楽しくやり取りしたことを覚えています。そしてヘルパーが誕生し芳和会の事業所に勤める方も出てきました。

退職された後も、医療機能評価受審の後や節々に声をかけて下さり、「頑張ってるね。」と励ましの言葉をいただき、折れそうなときもまた頑張ることができました。

私は、恩師はいつまでも存在して顔を拝見することができると思っているところがあって、亡くなられたことを聞いてもまだ実感できていま

せん。稲富さん、いつまでも私たちと看護の未来を見守ってくださいね。今までありがとうございます。



台湾・タロコ溪谷にて



1986年11月15日 九州民医連学術集談会への参加



1981年7月 くわみず病院開院前の子どもキャンプ



1987 年 4 月 29 日 保険医協会無料相談会



1987 年 10 月 24 日 平和の波行動へ参加（中央）

## 希望ヶ丘診療所では家族ぐるみに

石原須摩子

私が民医連に入職したのは確か1975年だと思います。

希望ヶ丘診療所に就職が決まりオープンの準備の時に入りました。くすのき団地の一戸建てを建設委員会の場所に借りそこを拠点に動きまわっていました。宣伝のため団地の集会所を借りてあっちこっち検診活動はかなりしたと思います。くすのき団地は5階建てで毎日そこを上ってはおりて検診の案内のビラ巻きです。

当時は若かったので毎日、毎日汗だくになりながらビラ巻きをしました。終わった後みんなで食べたアイスクリームの美味しかったことを思い出します。

最初の時から稲富さんも一緒に建設準備活動をしていたと思います。やはり夜遅くまで仕事をされていました。昔はみんな仲が良く稲富さんの家にも遊びにいきました。浩子ちゃん、よしこちゃんともいっしょで仲良しでした。そして1976年に診療所がオープン。

あんなに宣伝したのに患者さんが少なく増えないのです。稲富さんは毎日、毎日夜遅くまで残っている仕事をされていたと思います。

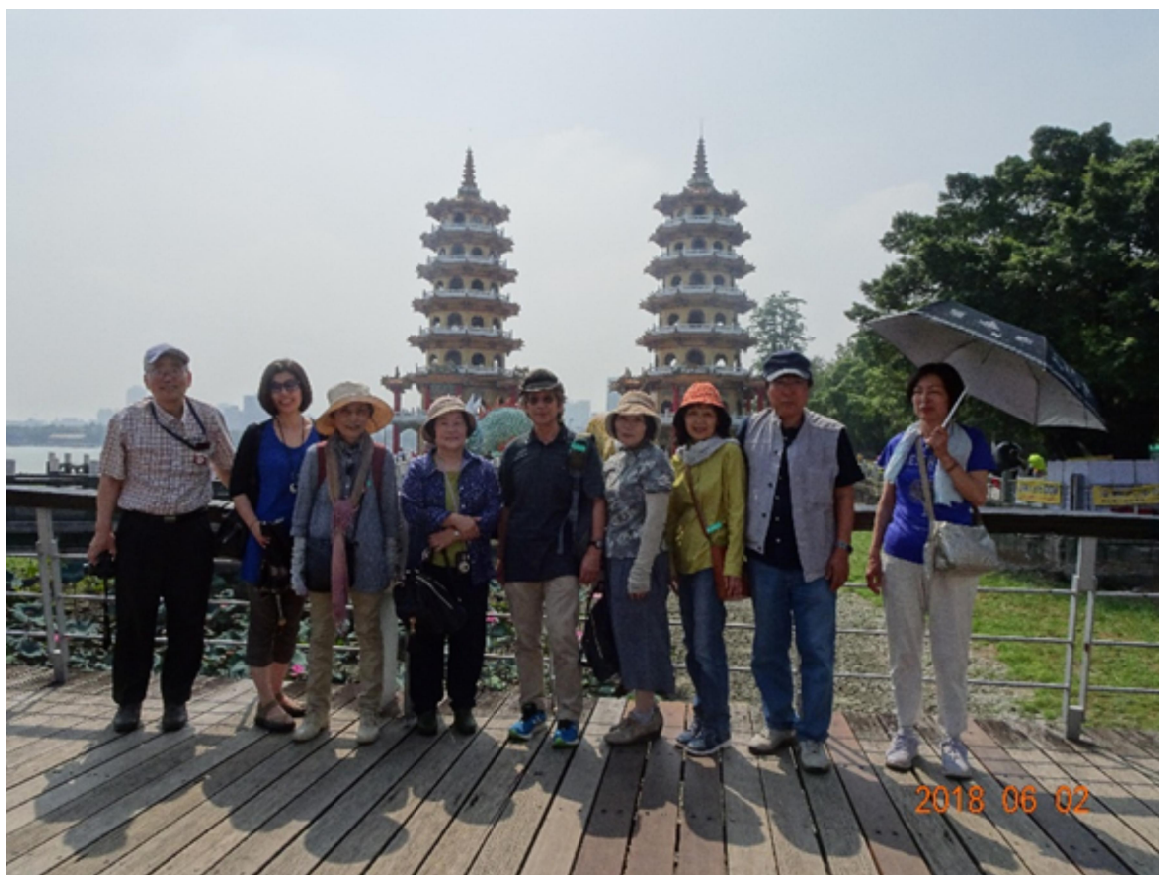
オープン時クリニックの玄関に患者さんの靴が少ないといけなかったので他の人の靴まで並べて賑やかなようによそおっていたような気がします。最初はとにかく大変でした。オープン後もなかなか患者さんが増えなくていつになったら増えるんだろうと皆で話をしていました。最初は医師体制も不安定で苦労がたえなかったと思います。

そういう中で稲富さんはクリニックの責任者として本当に粘り強くいろいろなあの手、この手を考えてやられていました。とても根性のある方でした。



建設委員会にて（左端）

台湾・高雄にて  
2018年6月2日



# 稲富さんへ「追悼」

西山直（荒尾在住）

稲富さんの訃報を知り、残念でなりません。

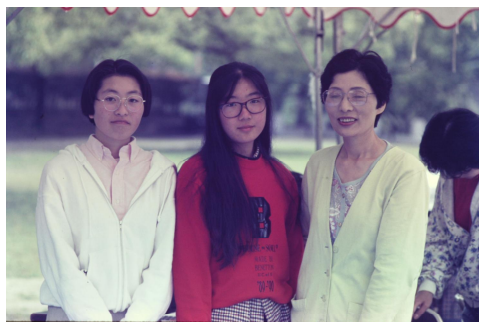
稲富さんとは芳和会へ入職当時、希望ヶ丘診療所建設に共に関わり、苦難を共にしてきました。私は医療についてはぶぶの素人で、稲富さんは荒尾市民病院等を経ての経験豊かなベテラン看護師さんで、婦長（当時名称）として力を発揮していただき大変助けられたことが思い浮かびます。

また、その後5年ほどして芳和会が新たに内科の病院建設を計画しましたが、そこでも稲富さんが婦長、私が事務長に任命されて、再び草創期の苦勞を共に歩んできました。

一気に増えた看護集団のまとめ役として、大変な苦勞をされていました。時折、二人の娘さんの話しになると顔がほころんでいた事が懐かしく思い出されます。

任務が変わってからは、会うたびに心身の心配を声かけしてくれるような方でした。かけがえのない仲間を失いました。

残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。



1991年のくまもと健康まつり

## 稲富さきへ

## 濱松いくみ

最初にお顔を拝見したのはくすのきクリニック開院の時だったと思います。職場を一緒に一緒するとはありませんでした。しかし、婦長会議や研修会、介護保険の始まる前の打ち合わせ会議、たくまの里の準備での特養員学、意見・討論など多くの場所で意見交換しました。

いつも理路整然とされ、自分の意見はきちんと言われていましたね。私は尊敬もし羨ましいと思っていました。退職されてからはほとんど会うこともなく電話で話したくらいです。すでに闘病されていて咳をしながらも一生懸命話し掛けて下さってありがとうございました。命のあるうちにもう一度…お話ししたかったです。そちらでゆっくりお休みください。冥福をお祈りいたします。



くわみず病院看護師長時代 看護部会議の風景 右から3番目

## ニコニコと笑顔の素敵な先輩看護師さん

長谷川伊佐子

稲富さんと最初にお会いしたのは、看護の教育学習委員会で水俣から会議に出てきた時でした。美人でスマートな師長さんで民医連看護の理念等をしっかり語って頂いた記憶があります。その後、私がくわみず病院に異動後、全日本の看護委員長会議が北海道で開催され、一緒に参加し楽しかった思い出があります。当時の九沖ブロックの看護委員長さんとはずーっと交流を続けてこられたようで、昨年、熊本でランチ会をしたと喜んで話されていました。

くすのき診療所時代は医師不足で大変な思いをされ、くわみず病院時代も医師・看護師不足と困難な時代を乗り越え頑張つてこられました。看護部長時代も、みんなが知ってるように帰宅は午前様だったと。随分無理をされていたと思いますが、稲富さんはいつもニコニコと笑顔の素敵な先輩看護師さんでした。

定年後は、私も希望が丘診療所時代の方々とアジア近辺と一緒に旅行しました。上海に行った時、現地の人と中国語で話されたり。カンボジアではガイドさんから食べられる蟻と説明を受け「どれどれ・」と本当に食べられたり、台湾のタロコ峡谷では現地の変わった帽子を茶目つ気たっぷりにかぶって購入されたり、いつまでも好奇心の強い面を見ました。趣味の水彩画は十年以上続けられ、入賞されたりと多才な方でした。

熊本民医連の苦難の時代を粘り強く諦めず医療・看護に情熱を捧げて今日の熊本民医連の看護の礎を築いてこられたことに感謝します。

近年は体調も思わしくなく苦しかった日々ではないかと思いますが、これからは、ゆっくりり安らかに、心よりご冥福をお祈りします。





## くわみず病院草創期を作った方

大楠 学

初めてお会いしたのは1980年頃でしょうか

採血をしてもらったことがあります。エイツと針を素早く血管内に差し込み、採血。痛くなく採血がうまいという印象が残ってます。

我慢強い方で身を粉にして働いたという印象です。くわみず病院草創期を作った方でもう少し熊本県民医連を見守ってほしかったです。

## 冷静で仕事も丁寧

小林久美子

稲富さんとの出会いは、くわみず病院に入職した26歳の時です。くわみず病院は、開設後半年で、最初は3階病棟勤務でした。看護体制も厳しく、月に14回から15回の夜勤をしていました。朝、仕事にいくと急に休んでいる看護婦さんがいたり、とても混乱していたと思います。その中で稲富総婦長は、冷静で仕事も丁寧にされておられた印象です。あの病院立ち上げの厳しい時代を芯を曲げずに頑張り抜かれたのではないかと尊敬しています。

その後、私は、稲富総婦長の後を引き継いで約4年間総婦長をさせていただきましたが、その時も看護婦不足が長く続き大変でした。総婦長を交代してからも、いろいろ教えていただき感謝しています。

個人的な思い出は少ないのですが、大変お世話になりました。

## 研修医に見せるために胃カメラ受診

田邊菜穂子

くわみず病院に入職した41年前、稲富さんは総師長さんだったと思います。外来看護師がやっていた内視鏡助手を検査技師が引き継ぐ事になり、私が主に担当していました。稲富さんは胃を切除されており、定期的な検査を受けていらつしやいました。その際切除後の胃がどうなっているか、研修医に見せるため施行はいつも胃カメラに慣れてない研修医でした。40年前はまだ鎮静剤も使わず今より大きなファイバーで、研修医が何十分も入れてるんですよ。気の毒にと思いながらも、総師長さんは偉いなりと感心したものです。当時研修されたドクター方は覚えてらつしやるでしょうか？感謝しかありませんね。

芳和会の発展に尽力された稲富さん、安らかにお休みください

# 「ナースアクションの先頭にたたれた先輩」 川上和美

（芳和会看護部長・全日本民医連副会長）

私は入職してから稲富さんと一緒にお仕事をした経験はなく、稲富さんが退職をされた後に「元看護部長さんよ」と、ご紹介いただいてご挨拶したのが初めてだったように思います。

でも、はじめにお会いした時の稲富さんの凛とした姿がとても素敵で印象的だったこと、とても優しい口調で語りかけていただいたことを覚えています。

私が2018年から全日本の理事になってから、ある日病院の玄関でお会いした際に駆け寄ってきてくださって、「聞いたわよ、全国の理事になったと、素晴らしい、とても誇らしいことだわ」と言ってくくださって、とても嬉しかったことも覚えています。

それが、稲富さんと言葉を交わした最後の会話になってしまいました。本当は理事になって不安でいっぱいだったのですが、喜んでくれる人があるのだと、稲富さんの言葉に救われた気がしました。

本当にありがとうございます。もっとちゃんとお礼を言っておけばよかったと後悔しています。

最近、1991年1月1日発行の民医連医療誌を手にすることができ、そこには稲富さんが「熊本の看護婦増員運動」について寄稿されていました。1990年代の看護師不足の問題に対し、県議会への陳情や熊本県看護婦を増員させる会（増やす会）発足、多くの団体とつながり運動を広げ、川嶋みどりさんの講演会やデモ行進など、大変旺盛に粘り強く取り組まれており、まさしく、私たちが現在取り組んでいるナースアクションだと感慨深いものがありました。

いつの時代も決して楽なこととはなく、看護のケア実践が豊かに大切にされる環境を常に自分たちで守り・たたかいながら積み上げてきた熊本県民医連の看護の歴史の延長線上に私たちがいるのだと感ずることが

きました。

稲富さんは、私たちのナースアクションをどんなふうにみてくれるでしょうね。もっとアドバイスを頂けたらよかったなと思います。これからも、熊本県民医連の看護は、若い力と先輩たちの経験知があわさって、切り開かれ、受け継がれていきます。どうか見守っていてくださいね。



### 長女・浩子

まだ、母が逝ってしまったことをきちんと受け止められずにいる自分がいます。でも母自身は、少し早かったけれど、いい人生だったと思っているように思います。納得のいくまで好きな仕事をして、退職してからは、やりたかった絵を習い、



## 稲富様の長女浩子さん 次女美子さんからのメッセージ

大きな作品にも取り組みました。地元のサークルでは太極拳を楽しみ、教えることもあったようです。とりわけ職場の同僚だった皆さんとの旅行は、行く前からずっと楽しみにしていました。私もベトナム、カンボジア、台湾の旅行にご一緒させていただきましたが、母は「どこに行くか」より、「皆さんと行くこと」が楽しかったのだと思います。夜、どなたかの部屋に集まって、身近な話から社会の話まで、同じ志を持つ、気心の知れた皆さんとのおしゃべりも本当に楽しそうでした。母の人生に彩りを添えてくださったすべての皆さんに、心から感謝申し上げます。

### 次女・美子

希望ヶ丘診療所の皆さま、この度、母のための会を開いていただきありがとうございます。母にとって、皆さんと一緒に働けたこと、職場が変わった後も支えていただき、そして退職後も旅行など一緒にさせていただいたこと、すべてが母の大切な時間だったと思います。希望ヶ丘に母が勤めていたころは、まだ私も小学生で、忙しい母にもっと甘えたい気持ちもありましたが、診療所の皆さんの行事などにも参加させていただいて、皆さんに甘えて可愛がっていただいたことを覚えております。母にとっては皆さんがホームであり、皆さんに見送っていただけることを心から喜んでいると思いますので、母のことを思い出していただけるとうれしいです。



健康友の会合同学習会

2018年12月19日健軍にて忘年会



ベトナムにて



2017年2月25日南熊本にて





2023年5月7日、西原村AZULにて

希望ヶ丘旅行団+αの集い、これが最後の稲富様参加のランチ会であったでしょうか。旅の話から日常の話、政治まで多彩な話題が飛び交いました。カメラに向かって皆さん笑顔の記念写真。

旅仲間を送る立場で・・・

職場のつながりで、ずっと旅を一緒にするということは、きっと珍しいのではないのでしょうか、旅から帰って半年もすれば夏か冬の交流会、その場で「まだどこか行きたい」と田中さんが声を掛けます。旅先探しは長谷川が担当です。特に格安旅行（上海2万9千八百円）とか目玉の旅を探して申し込みます。韓国では緑色病院見学を入れました。パク先生（朴賢緒理事長）やイム先生（現緑色病院院長）などの歓迎も受けました。年金暮らしでも行ける旅が最近は少なくなりましたが、2019年までは、結構手軽に行けました。

コロナも下火になったので、熊本発での台湾、韓国、沖縄への旅をそろそろ検討しようとした矢先での稲富様の訃報、とても残念でたまりません。これまで一緒に旅の思い出があることがせめてもの救いです。散る桜 残る桜も 散る桜 と良寛和尚も言われています。早いか遅いかの違いです。あちらでまた宇宙旅行に一緒に出かけて宇宙料理を楽しみましょう。



2025年6月11日 希望ヶ丘診療所OBを代表してお参りました。



民医連医療誌  
1991/01/01

○N氏はベツド当り一名、ON氏は室当り一名、透析当り一名、そして、全体に一名を加算したもので、私たちの要と実情を無視したものです。

そのれからすると、一九八八年末の患者数は、一万七千七名に對し、その当年生數數二万二千九名に對し、一九九二年末、当年充足計數一萬九千二名に對して七千六百名不足で、達成率八九・〇七%の狀態です。

ベツド当りの患者配置は人口平均の八・七%（ベツド数は人口比で金より多い）彼等では基礎病の獲得も低率以上に、金病院の八%といひ低きに定まっています。

養成数は、看護六四〇名、准看護婦一〇五名、その他計一七五名をベツド比は人口平均より少く、果ては看護学校は人口より少く、定数は全国平均より一〇%低くなっています。

難題者は、二〇三歳が全体六割、六割より多い、理由では腎臓、結核、育育の順で、理由三で、その他が三九%となっています（一九八八年度、東洋スバク

## 増員運動の経過

### 増員運動の経過

このような事情で、果して果の増員不足の表裏の懸念が、  
 中、果で私たちがくどくどたてたところから、  
 看護婦増員運動について述べて来た。まず、  
 一九九八年七月、厚生省が「昭和五十二年  
 三次看護婦員数増補計画」決定された。果  
 各県へ、果の看護計画策定を促す。果  
 要請した。果の看護不足に悩ま  
 ていた私たちは、早速、県に要請を  
 書を出して交渉した。これに、  
 出発点に、八八年、八九年  
 〇〇年、教育費を削って、大  
 と福祉、事業の充実を、  
 実行委員会（二十七団体で構成、  
 局長は県民会理事事務局長）以  
 大運動実行委員会の一員として  
 予算見直しを前に、対果要求  
 した。交渉の結果は、果の要求  
 一九〇一年は、〇四四員、

39

民医連医療222

1991 • 1

加し、今日の多くの若手選手への参加、増加など運動熱への盛り上がりも目撃されました。このとりまき、婦人、学生、高齢者などの協力も得られ、幸甚と共におのおの運動力刺激し合い、高め合関係がなれたことと確認しました。

一九九八年は、先の大運動会、委員会や市の母親大では有難い増進運動が提議されました。この増進運動に、船場で多くの若手選手は、この間を重視する多くの組織とその運に支えられ、励まされ、また、その運動も貢献し、たがりますすすいんと感じています。

全国と地元の仲間にはげますと、運動熱の盛り上がりで、私たちがとどまらずに誇りでも化してきて、地元紙の報道も、社説で「三つりあげの「間違った足は病院へ」の運動だけ「間違った足は病院へ」を求めるように、市民から「青い」を求め、多く見られるようにしました。取材に応じて

熊本県議会の動き

看護婦増員の必要感を述べてきたたなかたは、この見解を「看護婦増員問題の解決策」として、ある病院から看護婦の入会もありました。

一九九〇年三月、日本看護協会常任幹事会で、よくて三つの会員協定で、「看護婦増員の会」を開き協力組織として、看護婦増員に際する緊急申し入れを受理させました。その結果後援部長は、「要望書を各知事へ提出しました。」

**熊本県議会の動き**

県議会での動きをみてみます。  
九月三日（日）実際に開会では、対立交渉でも一致し積極的に進められてくれれば定数増員の「看護婦増員」を求める発出中に、口頭で決定的な返事はすずもいけません。また私たちの陳情は、厚生委員会でも採択されませんでした。八名全員不採択、社会一名も採択ありません。

その後の運動に伴って、九月半には別働隊では民党系議員、看護婦増員活動への民間系議員を月に四回程度は二日間に入つても応えて看護婦不足に間に合つて貰う事を

[illegible]

さらに運動を強める

[illegible]

熊本の看護婦増員運動

## 県需給計画の見直し、看護学校 新設などを勝ちとる



稲富紀美江 熊本芳和会看護部長

「つとりりともて、心算なうと云ふは、何ぞと云ふにせう。」これはすべて看護婦の願ひです。しかし、現実には非常な不足があり、無策な看護婦も不足し、やがて大きな会場問題もあり、文化の国(一患者)の便で文化のない生活習慣が、大段に侵襲されてきてゐる。熊本の看護婦は、看護婦不足と看護に関するソフトウェアで、フランスの元看護婦がいます。フランスの看護婦は、一月分の看護期間に暇を要せると、日本の看護婦はそれを半格段に減らす条件で勤めてゐる。そして、余計な「勤め」などとは無いといふ。そして、この条件を与へられたものではなく、自らの力かといふのです。そしてさらに、改善のためにたづなつていまして、

「私たち、若い看護と看護婦として働き続けたい条件を自ら求めたので、今後のステップでいきたい」と思ひ、熊本の私のたづな看護増員増速をふかされてゐま

## 熊本県の不足状況

## 熊本県の不足状況

熊本の実情について述べますと、看護婦供給と見られていた熊本県も、看護婦不足は深刻です。ある老人病院では、看護基準を六〇人前後に減らし、看護婦をセロ人前後に落とすことになり、定年を六〇から六三に二歳に延ばし、看護婦増産に努めているといえます。

また、地元紙の報道によると、熊本市内の某病院から医師訪問を受けた看護婦はスカウツ攻撃を受け、一〇人前後が転載した。このため、熊本文芸が医師会館を出たところ、その某病院では、上面の前で、看護婦学校の同僚等に罵詈雑言を飛ばすのが目撃され、何人も看護婦がやめた。等々と看護婦不足の話題に事欠かなくなりました。

一九九八年八月に作成された熊本県県の「看護職員増産給付」の積算基礎は次のようになっています。

一 内務省の病床数を五〇として、二八人制を課する看護職員数は婦長を含め、六名（看護長最低一、看護婦五名）で、一六〇、〇〇〇

1991 • 1

民医連医療222

38



一九九〇年に入り、看護婦連動の組織として、「看護婦連動会」を中に協力あつてりくんできた。

① 熊本県看護職員組合計画部を核とする会（後に熊本県看護会と改称する会）以下熊本看護協会

② 看護婦連動委員会——以て監事争奪会。

③ 熊本看護会をよくする会——以下よする会。

はじめは、県看護婦員会が、県連外の指図や協力の得ながら保守その他の要請を交換しながら進められ、独自対抗交渉も当たらなかつた。自分たちの後「三」に「ふんす会」を提議し、その構成員、基盤となる組織は、看護婦組合員、民医内外の看護婦長、理事、県連」と認めた。協力してすすめてきた。当初、闘争意識があつたのに余念もなく、この委員会の声も聞かれず、「よする会」は医療者としての連動性の結合を重視し、社員さんを中心とし、幅広い意見聞き、生かすでも参加できることを主張して、運動をすすめて、話し合いを進めたい。双方をねばり強い努力の中で、たたかぬべからう。

中心は看護婦争闘委員会、労組中心と確認し、相互に、より緊密な協力し、運動をすすめる関係に努力した。

熊本の看護婦争闘委員会は一九八一年一月に作成された報告が、当初は一つとした歩み方であった。その後、増資率（二二・四）の一、四万四千名、分提出と、異議なく賛同署名、それぞれに異、対労基協会、交渉するに決めた。次々と労働者を交渉するに、適切なタイミングで、運動の力を作出してきていた。

四月の看護婦とせ白夜集、看護婦を支える者の集い

講義とデモ（二六）年六月

オヤジの会の結成を促進。そしてその協力力を強めとりくんだ。二一ヶ月のスクラムコンサート及び看護婦と足と看護婦に関するフォーラム（二六）年四月）などである。

今年度（四〇回目）のスクラムコンサートでは、昨年同様鉄について、看護婦増員を中止にすべき、増資会を唱、白衣の会に訴えこく。一昨年では、感動を呼び、続くフォーラムでは、江崎南子、現日本医療労働組合、長澤、川島など（看護婦研究家、看護婦、患者、医師、プログラマー、看護婦の各々の発言にフラスコ問

## 熊本民医連OB会

### 第二回文化祭での稲富様の絵画展示

中央の男性は稲富さんのお父さんでしょうか 二〇一八年十二月



## 芳和会OB会の文化祭風景



## 稲富紀美江様を送る会開催 6月20日

当日司会担当の吉尾邦子さんは稲富さんの直属の看護師として希望ヶ丘診療所時代とくわみず病院時代にご一緒した。その後、退職後の希望ヶ丘OB中心の旅仲間で、時々食事会などを企画してきた。2023年5月7日、西原村AZULにて行ったランチ会での送迎が最後の機会だったような気がする。そのとき遺言めいた言葉を二つ遺された「診療所仲間だったYさんと会わないまま病死してしまったこと。もう一度会っていただけたのに」「初代診療所所長M先生が小児科の研修希望を出されたのに、代わりの医師が居ないと言って研修に出すことができなかった」こと。「今思えば、なんとか研修に出しておけばよかったと後悔している」というお話を帰りの車の中で聞いていた。二つの叶わなかったことへの拘りは、あれは稲富さんの最後の遺言だったのかも吉尾さんは思ったそうです。

その診療所時代の医師不在の時、小児科受診にお出でになった親子を近くの小児科と一緒に出掛けて玄関まで案内されていたことを吉尾さんは思い出と語っていた。患者さんには最後まで寄り添われていた。

大楠さん制作の記録動画は特に参加者の心を掴みました。それは稲富紀美江様へのインタビューでした。





記録動画撮影時の稲富さん  
インタビュー風景



高校生一日看護婦での  
TV インタビュー風景

## 稲富正浩様の挨拶から・・・

いつも妻に先を越されていた。経済面でも支えて貰っていたと語る紀美江様の夫 稲富正浩様は動画を観て、全然知らなかったことがあったそうです。勤務時間は睡眠時間を削って注いだ看護部門のトップとして、特にくわみず病院を初期から育ててきた愛情が最後まで貫かれていたこと。「最期にはくわみず病院で（死にたい）」という言葉が重く伝わってきました。それは育ててきた病院という愛着がその希望になったのでしょうか。残念ながら、それは叶わなかったことでした。

今回入所先からは「亡くなりました」という電話にビックリされ、最後の面会も出来なかったことが心残りでした。せめて危ないときは事前の知らせがあるのが普通と、紀美江様と交流のあった他県の看護部長だった方からの怒りの発言があったことを報告されていました。葬式は家族だけで行ったが、今回この偲ぶ会に集まってくださった方の話が聞けて、とても感動したと皆様に感謝されていました。



司会は古尾邦子さん、開会挨拶と献杯を田中克己さん担当  
 黙祷を捧げ、献花をし、偲ぶ会の祭壇が綺麗な花に囲まれたあとは、  
 参加の皆様の稲富様との思い出が語られました。



### 偲ぶ会参加者の声

〇\*「おつかれさまでした。みんなそれぞれの意見が出ていたし、苦しかった時期のことをよく伝えて頂き、非常に良かったです。」

Ⅰ\*「感動的な偲ぶ会ありがとうございました。つくづく稲富さんの偉大さを心に刻んだ一日でした。」

Ⅱ\*「くわみず病院創設の頃の話が色々聞けて良かったです。ご主人も喜んでくださって良かったです。」

Ⅲ\*「今日は稲富さんを偲ぶ会に参加させて頂きありがとうございます。貴重な一時となりました。」

Ⅳ\*「今の若い看護師に話しても分かってくれないだろうけど、ビデオをみて先輩のことを少しでも学んでほしい」





黙祷



思い出を語る

この会では稲富紀美江様ご本人のビデオメッセージが流れて感動的でした。困難な熊本民医連時代を振り返りそれでも「最期はくわみず病院で」という言葉もありました。まるで自分が育ててきた子どものような病院で、という意味もあつたのでしょうか。上映された記録動画の撮影・編集は大榎学さんによるもので特に感謝申し上げます。

稲富正浩様が奥様との思い出を語られ、この会へ参加の皆様に感謝され、偲ぶ会を終了することが出来ました。メッセージを寄せて頂いた方、参加頂いた方ありがとうございます。後に娘さんの浩子様より、生前の母の希望は知り合いが花を捧げてくれること、それだけでよいとのことでした。その願いは叶いましたね。

なお会費の一部をお盆の頃、線香代として贈ることを了承くださいますようお願いいたします。



献花





西原村小森のギャラリーカフェAZULにて開催

## 偲ぶ会への御礼 娘さんから

偲ぶ会は、本当にいい会を開いていただいたと父は感動していました。あの日、自分の知らなかった母のことを知ることができたことと、皆さんが一人お一人、心を込めて母のことを語ってくださったことがうれしくて、感動して、気持ちが高ぶったのか、なかなか寝付けなかったと言っていました。

父に聞いたら、結局、ごあいさつの場でも言わなかったみたいですが、生前・母は、自分が死んだときはお経もいらさないし、葬儀は簡素でいいから、

親しい仲間の皆さんに1輪ずつお花を手向けてもらえたらいいなあと言っていたらしいんです。

「そんなことをこちらからお願ひするわけにもいかないし・・・」と思っていたら、

このような会を開いていただけることになって本当にうれしかったと言っていました。

当日、皆さまから色とりどりのお花を手向けていただいて、

写真の母もうれしそうに見えます。

本当にありがとうございました。

当日ご参加くださった皆さまにも、

機会があれば、くれぐれもよろしくお伝えいただけると幸いです。

稲富浩子

## 参加者・稲富紀美江さんとの関わり

稲富正浩 夫

渡辺孝宏 希望ヶ丘診療所 旅仲間

渡辺翠 旅仲間

渡瀬廣之 旅仲間

渡瀬邦子 看護師 旅仲間

大榎学 くわみず病院

大榎弘子 くわみず病院

山本隆憲 芳和会本部

田中克己 希望ヶ丘診療所 旅仲間

吉尾邦子 希望ヶ丘診療所・くわみず病院 旅仲間

西原陽子 芳和会本部

丸岡宏子 芳和会本部

吉田京子 くわみず病院

濱松いくみ 看護師

石原須摩子 希望ヶ丘診療所 旅仲間

小林久美子 くわみず病院（菊陽病院）

今村須美子 看護師・芳和会OB会

渡辺明美 看護師

長谷川伊佐子 看護師 旅仲間

長谷川博 希望ヶ丘診療所 旅仲間

# 「稲富紀美江さんを偲ぶメッセージ集」2025年6月27日発行

1981年くわみず病院完成間近  
← 手前は解体前の熊本保養院



→ 盆踊り準備



\*追加のメッセージや文書で不都合なところがあれば連絡ください。  
すぐに修正し再アップします。WEB冊子の便利なところです。一年ほどはこのままのURLからダウンロード出来るようにしておきます。

1)メッセージ投稿できます。

<https://azul.daa.jp/diary/inadomi620/>

2) <http://azul.daa.jp/diary/wp-content/uploads/2025/06/memoryofinadomi.pdf>

## 希望ヶ丘診療所OBプラス有志で作ったWeb冊子

写真提供 渡辺孝宏・大榎学・吉尾邦子・健康友の会、高木裕一  
動画提供 大榎学  
文集編集 長谷川博